

## 森とせせらぎネット 新年会の案内

日時：1月17日（日）  
1時～  
場所：井田共和会館1階  
（井田神社内）  
中原区井田中ノ町13-24  
会費：1500円  
連絡：766-0550（田辺）

式次第  
司会 田辺達夫 会計 須山、  
乾杯の音頭 向江卓郎  
年頭の所感 代理 遠藤正久  
今年の抱負 参加者  
懇談&アトラクション  
締め挨拶 稲本文雄



申年元旦夢中戯作  
稲本将文  
悟空現夢熟睡中  
感世妖魔不病  
翔天激闘雄雄決  
強敵除来願通

しんねんげんたんむちゅうたわむれのおきく  
中年元旦夢中戯作 稲本将文  
悟空夢に現る熟睡の中  
世を迷わすの妖魔暴走まらす  
天を翔け激闘し雄雄を伏す  
強敵を除き来て醒気通す

今年の干支に因んで漢詩を稲本将文副代表より頂きましたので  
紹介します。

# 新しい年に向かって

## 代表 松本浩次郎

江川せせらぎ遊歩道を愛好する皆様、新年明けましておめでとうございます。  
私どもが運営する「森とせせらぎネット」は、十年前の2005年12月11日に発足しました。初代の代表は昨年亡くなられた平井資嘉壽さん、副代表が松本、事務局長は今と同じ田辺勝義さん、事務局には阿久沢さん、石川さん、河野さん、佐藤さん、田辺さん、菊池さん等十名のそうそうたるメンバーでした。

設立総会に提案された3ヶ年計画には「目指す方向」として、『「江川せせらぎ遊歩道」や「市民健康の森」を維持・管理し、新城から井田山をつなげた{水と緑の回廊}のまちづくりを目指す』と謳い、{人の顔が見え、皆で文化を楽しみ、子供たちの故郷になるような、楽しく豊かな地域づくりを進める}とこれからの方向を示しました。

この十年の間に、せせらぎ祭りは9回、灯籠流しは5回、ひとみ座寄席と人力車も活発に活動してきましたが、{子供たちの故郷になるような、楽しく豊かな地域づくり}が進んだのでしょうか？{水と緑の回廊}づくりはどうでしょうか？{せせらぎ祭り}が地域の町会と連携した動きになってきているのでしょうか？こうした動きを加速するため、若い女性のご参加を期待しております。

せせらぎ遊歩道の維持管理活動は周辺10町会で行うことになっています。私の住む明津町会も定期的に草むしりや清掃を行っていますが、他の周辺町会の皆様もそれ以上の美化活動に尽力されています。こうした皆様のご努力で遊歩道の美化が保たれ、春には河津桜、夏には百日紅が咲き乱れ、大勢の散歩者を楽しませて

います。しかし残念なのは遊歩道のあちこちに散乱する「タバコの吸い殻」や「犬の糞」です。みんなで声を掛け合い、さらに楽しい遊歩道にしてゆきたいと願っています。



第39号

発行者：松本浩次郎  
編集者：遠藤 正久  
発行：28年1月

輝かしい新年を迎えネットニュー  
ス読みやすい内容とせせらぎ遊  
歩道の情報を今年も年4回の発行  
で皆様方に楽しんで頂けるよう努  
めますので宜しくご愛読お願い  
いたします。  
広報部一同

森とせせらぎネット及び  
関連団体のイベント紹介



せせらぎネットの新年会

一月十七日（日）詳細は左上に  
記載

ひとみ座

「赤い蠟燭と人魚」

劇団俳優座の岩崎加根子によ  
る朗読と、ひとみ座の人形によ  
る舞台。

小川未明の童話から表題作他  
「月夜とめがね」「野ばら」を  
上演。

日時2月6日（土） 18時 7日

（日） 10時30分 13時30分

会場 県民共済みらいホール  
（横浜・桜木町）

全席指定 3歳以下入場不可

神庭・里山を楽しむ会 二月七

日（日）ジャガイモ植え付け

二月十七（水）竹林管理 詳細

は神庭緑地掲示板にてご確認

ください。

井田囃子保存会

参加者募集中 参加無料

稽古日毎週金曜日六時半～八時

半井田神社にて練習

大人の方も歓迎 問合わせ

七六六・〇三三三まで

井田山・市民健康の森を

育てる

毎月第一木曜日 井田山クリー

ディ 九時より

二月十三日（土）冬鳥観察会

二十一日（日）椎茸ホダ木つく

りを行います。

中原区役所

歩こつ会&バスハイキング開

催、是非ご参加を

詳しくは、HPにて確認ください

い。

高津区役所

平成28年度「花のコンサート出

演者募集」を募集しています。

# 役員 幹事からの新春挨拶

代表 松本浩次郎 副代表 稻本文雄 事務局長 田辺勝義 会計 須山三枝子 会計監査 伊東芳治 小島和行 総務部長 田辺達夫 広報部長 遠藤正久 行事部長 田辺勝義 文化部長 中谷倭文 乃 交通部長 菊地清 幹事 向江卓郎 柳沢昌美 藪 悟 田中達也 吉田貴美江

## 江川せせらぎの物語

### 洪水対策の雨水貯留管工事始まる

第5話 田辺勝義

1990年頃になると、洪水対策のための貯留管工事が進む中、上部にせせらぎが出来るという話なので、下水道局担当者から「親水緑道計画」についての説明を受けました。その内容を「準備会 ニュース」を発行して、地域や町会の人に広く知ってもらいました。そして、前回紹介合意に基づいて、91年8月に「江川の水と緑を考える会」が発足したのです。



川崎市の計画を尊重しながら協力、提案をして行くための方法は、一つは、親水緑道づくりでの先進事例を見学し、そこから学ぶこと、さらに、親水

緑道などの研究をしている方の話を聞いて学ぶこと、になりました。その時、東京江戸川区にある「小松川境川親水緑道」は素晴らしい先進事例であることを知りました。小松川には3回行っていましたが、それほど素晴らしい親水緑道であり、江川せせらぎづくりの模範となると思ったからです。早速その年の11月に13名で見学に行きました。見学後、当時の代表の田辺勝さんは、「やればできるものだ。自然を取り戻す運動である江川の会の運動もこれで弾みがつく。川崎市も研究して努力してほしい。」と感想を語っていました。そして、市の担当者は私達の情報と要望に応えて、そこに見学に行ったことを後で知って、その積極性を頼もしく思ったものでした。

### 新年号を飾る写真を！

フォトコンテストの募集の結果締め切り一月十日をもって応募者2名3作品でした。有難うございました。

フォトコンテスト委員会では、作品が少数の為、次回の継続として、また各応募者には、その旨を伝え記念品にて了解を得ました。一面の写真は、湘南の初日の出投稿写真（鎌田裕美子様より）

## 森とせせらぎネット新年会



乾杯で今年の健闘を誓いあいます。

一月十七日（日）井田神社にて一時より森とせせらぎネット新年会が行われました。式次第により田辺（達）幹事の司会、新年明けましておめでとうございませす。で始まり向江幹事の乾杯で今年の健闘を誓いあいます。松本代表が所用で欠席の為、遠藤幹事が代わって年頭挨拶を「日々の活動を一丸となって楽しくお願います。」その後、「馳走を美味しく食べお酒を酌み交わしながら懇談と参加者の抱負。新年会恒例の下小田中・女性チームのフラダンスが披露され、また民謡、詩吟と盛り上がりました。最後に稲本副代表「怪我のない様に今年も」との手締めで終了。お疲れ様でした。（広報部）

## 江川せせらぎ 清掃活動報告

ネット事務局長 田辺勝義  
晴天の下、楽しく清掃活動



2月17日（日）の清掃活動は、一つには、子供が歩く時に目に入った、りしないように、樹木の低い部分の剪定をすること、次に、6月に予定されている「森とせせらぎシンポジウム」に向けて、せせらぎに関する問題を見つけようという（巖川橋付近の歩道の件も含め）目的で、5人の

メンバーが集まりました。残念ながらネットのユニホームは間に合いませんでしたが、行き交う人々に声をかけながら行いました。2か月ぶりのゴミ拾いでしたが、たばこのポイ捨てが非常に多いことが気になりました。また、犬の散歩をさせる人がおり、しかも、糞を草むらにさせていました。それには草刈りや清掃作業をする町会メンバーが困っているのです。さらに、せせらぎを横切る歩道に關しては、自転車を押して渡るように杭を立てるのがいいのではな

いかと思いました。新年に思う事 せせらぎ文化部長 中谷倭文乃

江川せせらぎ遊歩道も新しい年を迎え春を告げる樹木にはもう春の準備を始め新芽のめばえを感じさせてくれるようになって来ました。

## せせらぎ文化部

四季を楽しませてくれる江川せせらぎの管理棟前では、展示物を催すたびに人々の感心の深さに驚ろかされます。今年もたくさん展示物を企画しています。江川せせらぎネットの文化活動を通じて子供から大人まで心のふるさととして自分達の地域を好きになって欲しいと思います。

### お知らせ

江川せせらぎ（巖川橋）の歩車分離について  
巖川橋交差点手前20mの区間は、歩行者と自転車混在し危険な状況となっております。看板設置にて表示有り（1月28日済）区役所



江川せせらぎ遊歩道には、年間で何種類の野鳥がいるでしょうか？ 約20羽（馬場総合動物病院提供）

## シベリア鉄道とバイカル湖の旅

続編 松本浩次郎



復した船の上でも、自然保護区キャンプ場でも、朝焼けの空に向かつて歌声が響き渡った。それでも「花は咲く」

ザ・バイカル混成合唱団 シベリア鉄道の旅も2日目になると運動不足に悩まされ、足踏みや柔軟体操で追っかなくなりました。2日目の昼飯後、「歌を唄おう」と誰からもなく言いだした。幸い佐伯さんが「花は咲く」の楽譜を持っていた。私も覚えたいと思っていたので、早速飛びついた。昼食後、最後尾車両のデッキでレスンすることに、女性も男性も殆ど集まった。佐伯さんのリードで歌い始めると、背筋が伸びて胃腸の消化が良くなり、伸びのある歌声がシベリアの原野に響き渡った。かくいう私も、久しぶりに大勢の女性に囲まれてか、詩吟で鍛ええた発声に力がかもりノッテきたが、「コフシを入れてはダメよ」と佐伯さんに窘められた。歌声はシベリア鉄道からバイカル湖に引き続がれ、キャンプサイトへの往

戦後のある時期、ロシアから「ドン・コザック合唱団」が来日し、ロシア民謡で日本の若者を魅了した。日露戦争でのドン・コザック騎兵隊の活躍も記憶にあった。今回の旅行でも、ロシア皇帝の銅像とコザック將軍の銅像を多く見かけた。コザックとはロシアの一部族かと思いきや、ウクライナ地域を治めていた自治集団だったが、歴史の変遷とともに、ウクライナのコザックは独立を失った。ロシア・コザックはウクライナをモデルに編成された半農武装集団のよう、日本の戦国時代にあつた「一領具足」と似ていて、平時は農耕、有事には軍務に着くことを条件に、特権的な土地使用を認められた。 続きは次号お楽しみください。